

## 空港土木施設設計要領（舗装設計編）の改正履歴

改正年月	主な改正点
2024年（令和6年）4月	無筋コンクリート舗装に用いるコンクリート配合の実績を追加
2023年（令和5年）4月	アスファルト舗装の施工目地の留意点を追加
	アスファルト舗装の表層及び基層の一層の最大仕上がり厚を10cmとすることも可能であることを追加
	ヘリポート用舗装の構造設計を追加
2022年（令和4年）4月	半たわみ性舗装の留意点を追加
	RCプレキャスト舗装の構造設計を追加
2021年（令和3年）4月	アスファルト舗装のタックコートとして、速分解型アスファルト乳剤PKM-T-Qを標準
	アスファルト舗装の施工目地対策として、成形目地材を追加
	アスファルト舗装の解体調査項目について、針入度・軟化点試験からDSR試験に変更
	アスファルト舗装の評価について、修正ロットマン試験の目安値を追加
	コンクリート舗装の補修方法として、樹脂充填を追加
2019年（平成31年）4月	<b>空港舗装設計要領と空港舗装補修要領を統合し、空港土木施設設計要領（舗装設計編）を制定</b>
	アスファルト舗装のグルーピング養生期間について、改質アスファルト使用の場合は1か月から7日に変更
	アスファルト舗装の解体調査項目について、修正ロットマン試験を追加
	アスファルト混合物の施工最小厚について、基層の場合は骨材最大粒径の1.5倍から2.0倍に変更
	コンクリート版の縦横比の目安を追加
2018年（平成30年）4月	路面性情調査の測定機器として、MMSを追加
2017年（平成29年）4月	舗装種別に関する一般的な考え方を記載
	既設舗装の破損状況から、アスファルト舗装の基層の破損が懸念される場合は改質アスファルトを標準
	アスファルト舗装のわだち掘れ量算出方法を変更
	アスファルト舗装の平坦性評価指標をBBIに変更
	アスファルト舗装の路面性情評価指標のPRIを廃止
	FWD調査の載荷荷重の選択の目安を変更
	施工が困難となるアスファルト舗装設計に関する留意点を追加
2016年（平成28年）4月	コンクリート舗装の新設版と既設版の境界における目地配置の留意点を追加
2015年（平成27年）4月	試験値の棄却判定方法の変更
	路面性情調査等の実施頻度に関する記載を変更
2014年（平成26年）4月	設計航空機荷重区分LA-1にB787型機を追加
2013年（平成25年）4月	既設舗装の破損状況から、アスファルト舗装の表層の破損が懸念される場合は改質アスファルトを標準
	基層で交通開放する場合の留意点を追加
	基層に再生アスファルト混合物を使用する場合の試験条件を、基層での交通開放の有無に応じて変更
2012年（平成24年）4月	FWD調査方法の詳細を追加
2011年（平成23年）4月	<b>空港舗装補修要領を制定</b>
	アスファルト舗装のわだち掘れ量測定位置を変更
	FWDによるアスファルト舗装の構造評価方法を変更
	アスファルト舗装の層間剝離の検出法として熱赤外線調査を追加
	アスファルト舗装のタックコートとして、夜間施工においてはPKM-Tを原則
	アスファルト混合物の施工最小厚について、表層の場合は骨材最大粒径の2.0倍から2.5倍に変更
	基層に再生アスファルト混合物を使用する場合の試験方法を追加
	アスファルト舗装のグルーピング養生期間について、改質アスファルト使用の場合は2か月から1か月に変更
コンクリート舗装の補修方法として、コンクリート薄層付着オーバーレイ工法を追加	
2008年（平成20年）7月	<b>空港舗装設計要領を制定</b> 理論的設計法を導入